

2 ブラッドアクセスカルテを導入して

いでうら内科クリニック ○田中奈津紀 傳田規子 松澤葉子 田中真美
出浦正

【はじめに】

第54回JSDTにて、当院が発表した先行研究「インシデントレポートの取り組み」から、穿刺ミスがインシデントの約60%を占める結果が出た。

そこで、穿刺ミスを回避するため穿刺技術及び知識の向上に努め、患者個々のブラッドアクセス情報を共有する必要があると考えた。

2009年4月から全患者に当院独自のブラッドアクセスカルテ(以下カルテとする)を作成し、穿刺ミス減少を目指し取り組んだのでその経過・有用性について報告する。

【目的】

ブラッドアクセスカルテを活用し、穿刺ミスを回避する。

【用語の定義】

ブラッドアクセスカルテ：当院独自に作成した、ブラッドアクセス情報が記載されているカルテ。

【研究方法】

1. 期間 2009年1月～2009年9月

2. 対象 当院看護師 5名

経験年数	1～2年	2名
	4～5年	1名
	5～6年	1名
	10年以上	1名

3. 方法

(1)カルテ導入前後にスタッフにブラッドアクセスについてのアンケート調査を行った。

アンケートは、カルテ導入前後同じ内容とし、ブラッドアクセス情報と穿刺ミスについて行った。ブラッドアクセス情報は何かから得ているかと、情報不足で困った具体例を挙げてもらった。

カルテ導入後のアンケートには、カルテ活用方法

についての質問を加えた。

(2)カルテ導入前のアンケート調査をもとにカルテを作成し、全患者42名にカルテを使用した。

(3)カルテの活用状況を把握し、有用性を評価した。

(4)カルテ導入前後の穿刺ミス件数を比較した。

【アンケート結果】

① ブラッドアクセス情報は何かから得ていますか
<カルテ導入前>

- ・シャント造影、PTAの結果
- ・血液透析記録
- ・紹介状

- ・スタッフの助言
- ・患者様より

<カルテ導入後>

- ・ブラッドアクセスカルテ
- ・シャント造影の写真
- ・カンファレンス
- ・スタッフの助言

② ブラッドアクセスの情報不足で困ったことはありますか

<カルテ導入前>

- ・血管の走行が分からず穿刺で迷うことがあった。2名
- ・スムーズに情報が拾えなかった。2名
- ・透析経験が浅い為問題のあるシャントの観察方法や穿刺時の工夫、穿刺部位の選択がわからなかった。

<カルテ導入後>

- ・ブラッドアクセスカルテは造影写真なので、腕のどの部分なのかすぐに判断できないことがある。
- ・複雑な血管は、カルテを見ても血管の走行がよくわからないことがある。

③ ブラッドアクセスカルテの活用方法

(1) どんな時に活用していますか

- ・ 穿刺部位や穿刺方法変更時
- ・ 苦手な患者様の穿刺時
- ・ 脱血不良や静脈圧上昇といったトラブル時
- ・ 狭窄音などの異常時に過去の経過を参照する時

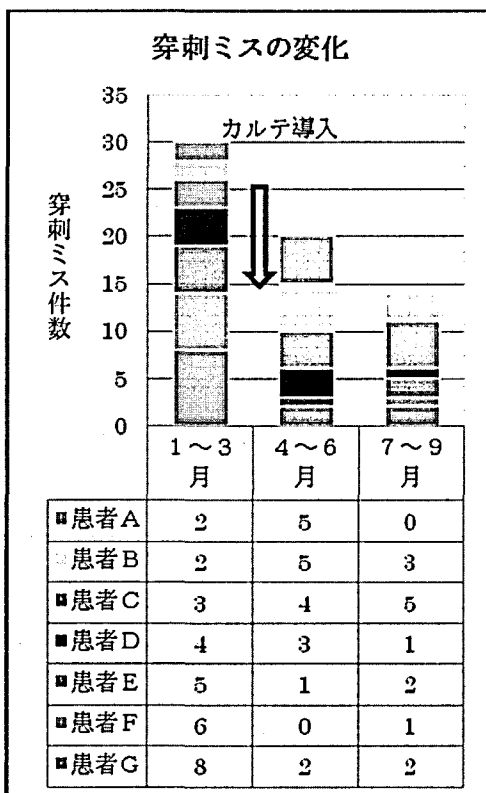
(2) ブラッドアクセスカルテの内容で役立つ点

- ・ シャント造影写真（血管の走行・穿刺部位など）
- ・ シャント観察の注意点
- ・ シャントの経過記録
- ・ カンファレンスの内容

④ 今後の改善点・意見はありますか

- ・ 変化のある患者のカルテは情報量が多く見にくい。
- ・ カンファレンスの内容がわかりにくい。

【カルテ導入前後の穿刺ミスの比較】



2009年1～3月に穿刺ミス多かった7名の患者の穿刺ミス件数を、カルテ導入前後で比較した。

【結果・考察】

カルテ導入前のアンケート結果から、造影やPTAの結果、過去の血液透析記録や紹介状など様々なところからブラッドアクセス情報を収集していたことが明らかになった。

カルテ導入前は情報不足で困ったことがある、とスタッフ全員が答え、次のような問題点が挙げられた。

1. 血管の走行がわからず穿刺部位を迷うことがある
2. スムーズに情報が収集できない
3. 透析経験が浅いため、問題のあるブラッドアクセスの観察方法や穿刺の工夫、穿刺部位の選択がわからない、であった。

そこで必要な情報を検討し、カルテを作成した。血管の特徴を記載し、走行が確認できるようシャント造影の写真を表示し、現在の穿刺部位を記入した。

また穿刺時の注意点も加え、シャント造影・PTAを行った際は 狭窄部位・拡張部位も書き入れた。

週一回の定期的カンファレンスの内容と経過も記録した。

カンファレンスは、患者個々のブラッドアクセス情報を共有することができ、ブラッドアクセスへの関心が高まり、知識向上に役立った。

カルテ導入後 カルテをどんな時に活用しているか、の問いに透析経験2年以内のスタッフは、穿刺部位や穿刺方法の変更時、苦手な患者の穿刺時と答えている。

カルテやカンファレンスを通し、患者個々の血管の特徴を理解できたことでミスを繰り返していた患者の穿刺も出来るようになった。

スタッフにとって、カルテは知識不足や判断力を補う効果があったと考えられる。

透析経験5年以上のスタッフは主に、脱血不良や静脈圧上昇などのトラブル時、ブラッドアクセスの異常時に経過を参照するため、カルテを活用していた。カルテに情報をまとめて記載したことで、必要な情報を迅速に収集できるようになった。

経験年数によりカルテの活用用途が異なっていたが、いずれもカルテは有効であったと考える。

カルテ導入前後の穿刺ミスと比較したところ、

ミスが多かった患者7名のうち6名が減少した。カルテを導入しカンファレンスを行うことで、スタッフそれぞれの穿刺に対する意識が向上した。そのためそれぞれの患者にあった穿刺の方法を身につけることもでき、苦手意識を持った患者の穿刺が出来るようになった。

カルテの導入は穿刺ミスの減少にもつながったと考えられる。

現在カルテを使用しているなかで「長期にわたる経過やカンファレンス内容がわかりにくい」「実際のシャントと造影写真が照合しづらい」などの意見があり、今後の課題として取り組んでいく必要がある。

【まとめ】

ブラッドアクセスカルテは穿刺時の情報源となり、穿刺ミス減少に有用であった。

参考文献

- 1) 齊藤 明監修 シャント管理と穿刺技術
MC メディカ出版 2005
- 2) 透析ケア March2005 Vol.11 No.3
MC メディカ出版